

「スマホ依存症」になっていませんか



発行所

名古屋中学・高校新聞部

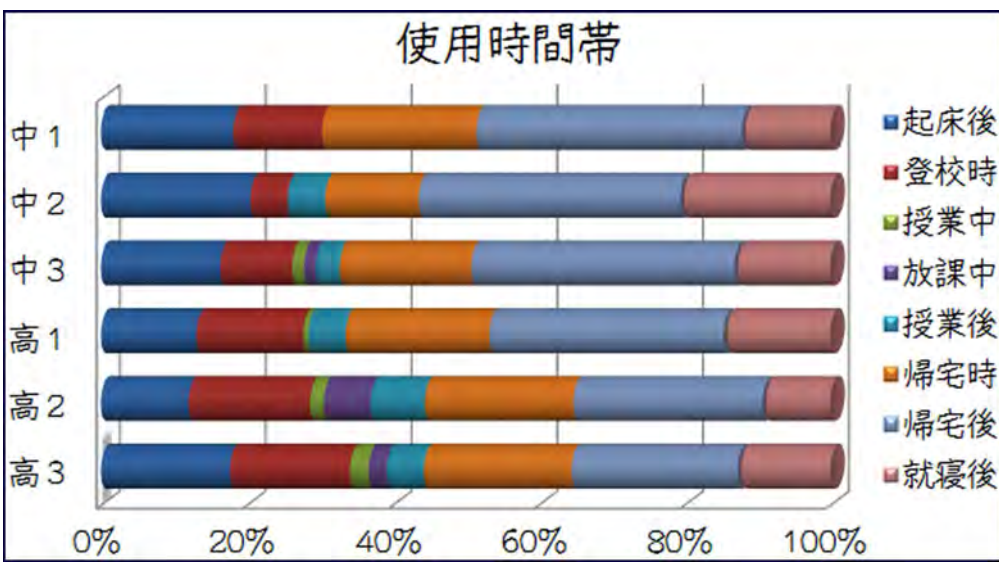
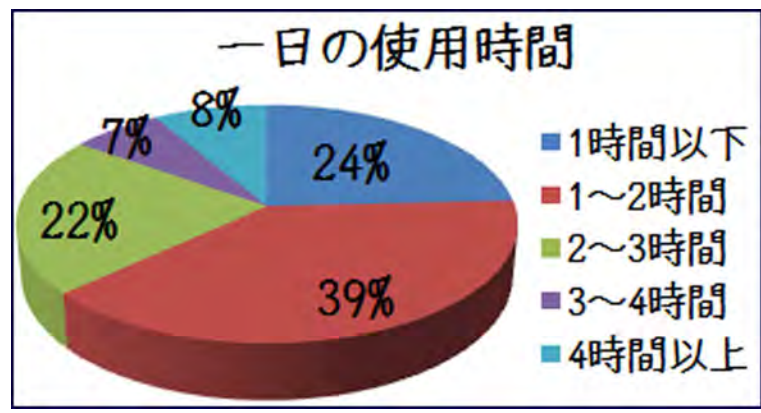
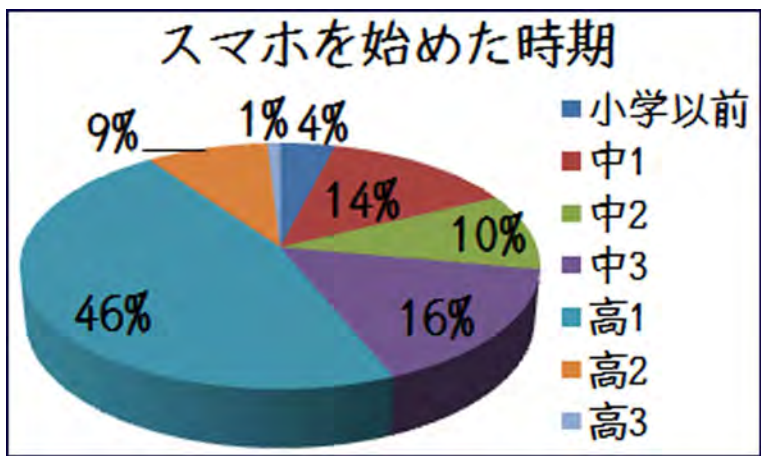
名古屋市東区砂田橋2丁目1番58号

TEL 052-721-5271

若い世代の多くがスマートフォンを使っている。便利だが、トラブルも張り巡らされている。「ヒドイ目」に遭う中高生は多い。新聞部は中学高校の各学年に利用実態などのアンケートをした。スマートフォンの保有率、使用時間とも学年が上がるほど高く、長いことがわかった。「自制」の大切さを考えたい。(西秀忠)

LINE・パズドラ…思いついたらふは？

保有率は高学年になるほど高い。1日あたりの使用時間は「3〜4時間」「2〜3時間」「1時間以下」のいずれも、中学と高校の差はほとんどなかった。ところが「4時間以上」は高校生の方が多かった。



存しすぎて大切な時間を失ってしまっているのかもしれない。中学生でも長時間使う習慣がつくと「手遅れ」になりかねない。情報が氾濫する中、友人とのトラブルだつてあり得る。一定のルールは必要だろう。

文化祭の一環として中学1年生が書き損じはがき2300枚を集め、フィリピンを支援するNPO「ICAN」(本部・名古屋市)に贈った。はがき1枚でも現地での価値は大きい。支援の意義そのものだけでなく、学生時代にボランティアを体験する意味は大きい。活動の輪を広げたい。(西秀忠)

はがき集めでは、中学校1年生たちが「1枚でも多く」と、早朝から学校近くの住民の方々に声を張り上げて協力を呼び掛けた。支援運動の「広告塔」役でもあった。その甲斐あって、回収日には住民の方々からも多くのはがきが寄せられた。生徒からは「感動した」との声も聞かれた。課題も見えた。せっかくの活動を自分の親が知らず、自宅にあるはがきが回収からもれたという「情報不足」などだ。来年に生かしたい。

宗教では「他者のために祈る」ことが多い。キリスト教は、特にその傾向が強いと思う。「自分が救われるための宗教なのになぜ」「本当に自分は幸せになることができるのか」と思う人は多いだろう。キリスト教徒でも仏教徒でもない僕自身も、最近まで納得できなかった。

1枚でもできる未来支援 書き損じはがき寄付

さて、集まったはがきで何が出来るのだろうか。まず知っておきたいのは、日本とフィリピンとはお金の価値が大きく違うことだ。日本で集めた書き損じはがき1枚で、フィリピンではノート2冊買える。11枚なら制服を買える。

皆さんは自制できていますか。アンケートからはこんなルールが見つかった。▽勉強部屋にスマホを持ちこまない▽勉強1時間につき、自由時間30分の枠内で▽課金不可ーなど多種多様。

世の中にはテロや戦争、原発事故など多くの「罪」がある。テロは自分の考えを暴力で押し通し、多くの犠牲を生む。内戦や戦争もそう。原発事故はどうだろうか。どうしようもなかった部分もあり、テロなどよりはましだが、罪だろう。人はわざとでなくても罪を犯している。食事だって命を奪っていることに変わりはない。なくせる罪となくせない罪があり、大半は「なくせる罪」ではないだろうか。

スマホの用途(自由回答)

LINE・パズドラ・ウィンドランナー・にゃんこ大戦争・マイクラフト・Twitter・Facebook・YouTube・ニコニコ動画・mixi・メール・電話・カメラ・古典や英語の辞書・アラーム・気象情報

使いすぎ防止策(自由回答)

勉強中は預ける・勉強部屋に持ち込まない・使用時間を決める・勉強1時間につき自由時間30分・充電はリビングで・テスト1〜2週間前は使用しない・成績が悪かったら次のテストまで取り上げ(30点以下)・家ではあまり使わない。家に帰ったら回収・会員登録は親と相談・寝る前にリビングに置く・課金不可・オンラインゲーム不可



そして、今回の企画で目標とした5600枚なら、雨風をしのぐ木造校舎が建てられる。昨年集めた2500枚と合わせると、2年がかりで4800枚になる。目標まであと一息だ。校舎といっても壁はなく、日本でも1クラス分の広さしかない。だが、この校舎こそ「勉強したい」現地の子どもたちの大きな希望となる。私たちは当たり前のように学校へ通い、しっかりとした家で食事ができる。学校の勉強なんて、将来役に立たない」と思うこともある。でも、フィリピンの貧しい子どもたちはそんなことを言えるだろうか。こう考えると、世の中には「当たり前」がないんだと思う。幸福な環境に生まれることを神によってかなえられた僕らは日々何が出来るのだろうか。そして不運な人々に何が出来るのだろうか。「敬神愛人」の精神は、自分たちだけではなく他人をも幸せにすることだ。



ヨット・レーザー4.7級

世界選手権に 来年8月挑戦

2020年のオリンピックが東京に決まった。本校にも、世界で活躍するアスリートがいる。来年8月に佐賀県唐津市で行われるヨットのレーザー4.7級世界選手権に出場する玉山裕登さん(4A)だ。秋の関西選手権で優勝し、世界への挑戦権を得た。東京国体にも愛知県代表として出場。このほどインタビューに応じた。(野川陽介)

玉山裕登さん(4A)

◆ヨットとはどんな競技ですか？
◇スタートラインから3つのブイ(浮き)を回ってフィニッシュラインまでの速さを競う競技です。オリピックで採用されている1人乗りのレーザークラスを少し小さくした感じのレーザークラスに出場しています。これは一人乗りで高校2年生までしか乗ることができません。

◆始めたきっかけは？
◇いとこに誘われて中1の7月に始めました。いとこはアジア選手権にも出場したことがあります。練習は、父親に教えてもらってラグーナ蒲郡の近くにある海陽ヨットハーバーでやっています。だいたい土日の朝九時から午後五時まで練習しています。中学1年の弟も一緒です。

◆ヨットの魅力、難しい点は？
◇海のどこへでも行けるのが魅力です。難しいのは風を予測することです。週末は練習なので勉強との両立が難しいです。ヨットをやめようと思ったことはありませんが、中学3年生のときにクラスチェンジして



来夏、ヨットの世界選手権に出場する玉山裕登さん

高校1年の5〜6月ごろまで結果が出なかったのがつらかったです。

◆関西選手権優勝や世界大会への思いを。
◇世界選手権の出場枠を取れる大会がいくつかあるのですが、関西選手権で取れると思っていなかったのでもううれしい。世界大会では上位入賞、できれば優勝したい。しっかり練習したいと思います。

◆将来どのような選手になりたいですか？
◇ヨット部のある大学に行くつもりです。オリンピックにも出場したいです。

「ヨット」競技自体を知らない人も多いと思いませんか。全てのスポーツに言えることですが、見ている分には「楽そう」かもしれませんが、裏ではすごい努力をしているということですね。世界大会もぜひ応援しましょう。

中高ラグビー 県準V



愛知県大会決勝で、あこがれの花園を目指して春日丘と戦うラグビー部

中学と高校のラグビー部が11月、それぞれ県大会決勝に臨み、惜しくも準優勝となった。

中学は、前回優勝の御田と対戦。名古屋は、緊張によるミスもあって前半は押されたものの、後半は体格差を感じさせないプレイで健闘。19-42で惜しくも敗れた。高校は春日丘と対戦。前半不意な失点を喫したが、後半は相手を0点に押さえた。しかし得点を奪うことが出来ず14-0でこちらも敗れた。

中学顧問の伊藤大輔先生、高校顧問の立石陽一先生はともに「多数の生徒・先生の応援で勇気をもらった。新人戦では勝負強く男らしく戦いたい」と話していた。(藤島健太)

荒れる図書館 被害多発

ごみ、延滞、持ち出しも

図書館の利用マナーが良くない。「★迷惑な贈り物」が置かれてから、ごみの放置は減つたらしい。しかし、誰かが言ったり、示したりしなければいけないのは考えものだ。担当の奈良秀樹先生たちに話を聞いた。(野川陽介)

◆4階が高校3年生のみ使用となりましたが、以前より汚れなくなりました。遊ぶ人も少なくなりました。勉強しやすい環境なので、高校2年生も入れてあげたいんだが、遊ぶ人がいるかもしれないから。

◆図書館のルールを破る生徒は多いですか？
◇去年より減っているか

個も捨てられていた。これも中学生が多い。

◆本そのものの被害はありませんか？
◇10月11日に、4冊の背表紙にX型にカッターで切った跡を発見しました。勝手に持ち出す人も多かったです。

◆貸し借りの状況に問題はありませんか？
◇延滞が多い。授業で図書館を使うこともありすが、そのときに本の置き場がバラバラになることがあります。わざとではないと思いますが、こんな状況のせいで、素直になつてほしい。

い、「朝日カメラ」という雑誌購読を取りやめました。一部のページが破れたり、とんでもないところにあつたりしましたから。

◆ほかにも問題は多いようですね
◇飲食禁止のルールには理由があります。昔、食べ物をごぼして申し出もせず、染みになり、その後ゴキブリが見つかった。害虫を呼び寄せたくなないので。水場が「洪水」になったこともある。開館閉館の看板が返却ボックスの上に置かれていたことも。棚の中に野球グローブが入っていたときは、後で持ち主が謝りに来ました。

◆生徒に言いたいことは
◇グローブのときのように、素直になつてほしい。

深夜まで編集作業を続けた新聞部員と愛知教育大生 = 11月23日午後10時すぎ、中区の中日新聞社で



11月23日(土)・24日(日)の2日間。本校で日本NIE学会が開催されました。

「NIE」とは「Newspaper In Education」の略で、学校の授業などに新聞をどう活かすのかについて意見が交わされました。

前半は、ジャーナリストの大谷昭宏さんやタレントの春香クリスティーンさんを招き、チャペルでシンポジウムがありました。後半は9つの分科会で活発な議論が交わされました。私たち新聞部も愛知教育大学の学生たちと連携して、当日の様子取材し、「ポプラの緑」学会特別号を発行しました。新聞の編集作業は夜10時過ぎまでかかり、翌日早朝から校舎前で来場者に配布しました。(野川陽介・藤島健太)

料理だ！「もやたま」

前号までの「ささ」ともいいかも。今回ご案内するのは一品「は、ちよつと簡単」「びよっぴー」です。(野川陽介)

ささっと一品料理だ！「もやたま」

前号までの「ささ」ともいいかも。今回ご案内するのは一品「は、ちよつと簡単」「びよっぴー」です。(野川陽介)

私はしょう油をかけ、混ぜていただきましたが、確かにこれは「料理」でした。ケチャップやポン酢をかけ「もやたま」だ。

フライパンにモヤシを丸く盛り、弱火に卵を中央に入れ、中央を焼く。しょう油をかけてまぜよう!! 焼いた豚バラ肉やひき肉を入れても良さそう

基本の材料

ちょ〜簡単作っている間に他のことも...

① フライパンにモヤシを丸く盛り、弱火に卵を中央に入れ、中央を焼く

② しょう油をかけてまぜよう!!

焼いた豚バラ肉やひき肉を入れても良さそう